



創作の原動力は

山湖で目覚める想像力

profile

平成元年 10月26日生まれ。福井県出身。洞爺地区在住。趣味は自然散策、読書。35歳。

Spotlight

スポットライト



野生の学舎

新井 祥也 さん

石、草花、貝殻。人間に古来から色を見出してきました。最古級の洞窟壁画は数万年前に描かれたとされ、山や海から原始的な絵具が作られたと考えられています。自分の手で触れた自然と共に創作と向き合う。新井祥也さんは、遙か昔から変わらない人の営みの中から作品を生み出す体験を、自身が始めた「野生の学舎」で広めています。洞爺地区で9月に開かれたワークショップ。洞爺内外から参加した60人以上の子どもと大人と共に新井さんが周りで採集した石や土から顔料を作り、5×6尺の大きな壁画を描きました。「いのちの私たち」というテーマの中で、自分や自然のいのちに耳を澄まし、太古の人々の想像力とつながっていくようでした。「描くってどんなことなんだろうね?」。新井さんの問いに不思議そうな顔を浮かべた子どもたちは、数時間後には複雑な描線を残していました。明確な形を成すことは前

提とせず、新井さんは「見えないものを想像することを大切にしたいんです」。子どもが想像力を働かせるままに絵を描いたことを喜びました。美大で学んで海外や日本を旅する中、自然との交わりや触覚を大切にしたい砂澤ビッキの彫刻を見るため洞爺湖芸術館に来館。2019年に移住したのち、コロナ禍で消えた人と自然の触れ合いを取り戻そうと野生の学舎を創設しました。教養や技術の指導に固執せず、自然の中で創作を探求する活動は100回近くに。11月30日まで同館で特別展も開かれており、野生の学舎の大きな壁画の新作や、これまでの作品と活動の軌跡をたどることができます。「芸術は本来は誰しもの生活と地続きでしたが、その接点が離れていると感じます。学舎の活動が民なる創造性を呼び覚ますことのきっかけとなれば」。自身もまた自然を師とするうちの一人。湧き立つ野生の感覚の赴くまま、洞爺の山湖へとまなごしを注いでいます。

東奔西走

15年ぶりの洞爺湖町開催となった縄文シティサミット。全国各地の縄文遺跡が紹介され、首長がそれぞれの特徴を熱っぽく語りました。成り立ちから全く異なる遺跡の数々に縄文文化の奥深さを感じました。(D.Y)  
**最**近は週に3日ほど徒歩で出勤することがあるのですが、思いのほか風が冷たく、秋が来たなと感じます。温泉街の紅葉もきれいなので、雪が積もらないうちに温泉に入りに行きたいなと思っています。(Y.A)

町公式LINEを友だち追加!

イベントや防災など様々な情報に加え、フルカラー版広報紙もご覧いただけます!

